（別紙6）

1.　評価結果概要表

作成日　平成１９年７月２７日

【評価実施概要】

事業所番号	0770800340		
法人名	医療法人社団　小野病院		
事業所名	医療法人社団　小野病院　グループホーム　レインボー		
所在地	福島県喜多方市関柴町上高額字広面673-6 （電　話）0241-22-2300		
評価機関名	社会福祉法人　福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利七社宮１１１番地		
訪問調査日	平成19年6月19日	評価確定日	平成19年7月31日

【情報提供票より】（　19　年　4　月　1　日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成　１４　年　４　月　１　日		
ユニット数	１ユニット	利用定員数計	９　人
職員数	６人	常勤　６人，非常勤　　人，常勤換算　６人	

（２）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	１階建ての　～　１階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	16,000　円		その他の経費(月額)	円
敷　金	有（　円）		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　860　円			

（４）利用者の概要（　４　月　１　日現在　）

利用者人数		９名	男性　０名	女性	９名
要介護１		１　名	要介護２	３	名
要介護３		１　名	要介護４	２	名
要介護５		２　名	要支援２		
年齢	平均	85.8 歳	最低　73 歳	最高	94 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団小野病院　及び　松崎歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は「皆さん(利用者)がいて自分(職員)がいること」を認識しケアに取り組み、日々の生活は利用者を中心にゆったり暮らしている。また、よりよく暮らし続けていく思いを大切にし、メニューは職員と利用者が相談しながら作成している。外出できない利用者にも楽しく過ごしてほしいという思いから桜を飾り花見の雰囲気を味わってもらったり、重度の利用者も同じメニューを食べれるよう工夫し、人工的な栄養補給に頼らずに対応している。さらに家族と利用者の思いや状況を見極めながら外出や外泊を勧め、よりよい関係づくりにも努めている。今後は重度や終末期の利用者を支える職員の配置の見直しと段階的に力がつくように研修の確保に努めてほしい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の外部評価の結果を踏まえ、各居室に椅子を配置するなど出来ることから改善に取り組んだ。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	職員が日常取り組んでいるケアの見直しや振り返りの機会として自己評価を全員で行い、管理者がひとつに取りまとめた、前回の要改善点は評価の意義を理解し出来るところから改善に取り組んだ。地域密着型サービスとしてホームでなにができるのかについて話し合った。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5）
	設置規程に基づいて２ヵ月に１回開催したが、ＰＲや情報交換等にとどまり、話し合う課題がない状況である。様子を見ながら６ヵ月に１回の開催とし、今後の会議のあり方について検討中である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	定期的な電活連絡や面会時に声を掛けちょっとした事でも気軽に言えるような関係に日頃より努めている。さらに意見箱や自由にどんな事でも書いてもらえるようにノートを備え意見等を気軽に伝えられるような機会を作っている。出された質問等はホームに掲示すると共にサービスに反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に加入し、町内清掃に参加したり、区長にホーム年間行事計画書を配布し、相互の情報収集に努め地域の作品展に出品するなど地域の関係づくりに努めている。

2.　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 **1．理念と共有**					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を日常的に活かすために共用スペースに掲げ、理念にそったケアに取り組み職員にも浸透しているが地域密着型サービスとしての理念の内容になっていない。	○	これまでの理念に地域密着型サービスの役割を反映した文言を加えるなどして理念を作りあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は朝の申し送りや業務会議等に理念について話し意識づけを行っている。日常生活の中でも折りに触れては理念の大切さを伝え、一人ひとりに合った言葉かけや対応において理念を反映させた取り組みを行っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内清掃に参加したり、区長にホームの年間行事計画書を配布し相互の情報収集を行い、地域開催の作品展に出品するなど積極的に地域の関係づくりに努めている。また、小学生が遊びに立ち寄ってくれる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員全員に自己評価票を配布し、職員が日常取り組んでいるケアの見直しや振り返りの機会として書いてもらい、管理者がひとつに取りまとめた。前回の要改善点は評価の意義を理解し、出来るところから改善に取り組んだ。また、地域密着型サービスとしてホームでなにができるかについて話し合った。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバー構成も含めて市の担当窓口に相談し、運営推進会議を設置した。設置規定に基づいて２ヵ月に１回開催したが、ホームのＰＲや情報交換等にとどまり、話し合う課題もない状況である。様子を見ながら６ヵ月に１回開催として会議のもちかた等を検討中である。	○	運営推進会議の目的を理解し事業所の取り組み内容や状況を話し、参加者から率直な意見や要望をもらい、サービス向上につなげていけるような話し合いや地域の理解と支援を得るための貴重な機会として２ヵ月に１回開催してほしい。
6	9				
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康や状況はその都度電話にて報告している。金銭出納の報告は領収書を添えて、ホームの行事予定や利用者の生活の様子等を掲載したホーム便りと一緒に定期的に送付している。職員の異動は利用者には当事者本人が挨拶している。家族には異動の理由も説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な電話連絡や面会時に声を掛け、ちょっとした事でも気軽に意見を言えるような関係を日頃より築いている、さらに玄関には意見箱や自由になんでも書いてもらえるようにノートを置いている。家族等からの質問は掲示すると共にサービスに反映させ前向きに取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日常生活の中で職員と利用者が築きあげてきた信頼関係を大切にし、顔馴染みの職員によるケアに努めている、基本的には法人内の異動は最小限に抑えている。やむを得ず異動になった場合は管理者等から説明をし、利用者や家族の理解を得るようにしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は実践を通して介助の仕方、対応方法、マニュアルにそった勉強等を行っている。外部研修に参加した職員はミーティング時等に報告を行っている。全職員が段階的に受講できるように努めているが、現在は利用者の状況等により参加できる状況にない。	○	限られた職員体制の中で、実務に支障を来たさないように配慮し、段階的に力をつけていけるような年間計画を立て、研修の機会を作ってほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のホームとは買物帰りに立ち寄ったり、訪問するなど交流している。地域の同業者と研修や相互訪問等について意見交換したことはあるが実現にまでは至らなかった経緯がある。グループホーム連絡協議会に加入し、管理者は交流する機会はある。	○	管理者以外の職員についても同業者間の勉強会や交流会を通して質の向上やケアに活かしてほしい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い勉強になることが多くある。郷土料理を教えてもらったり、いたわってもらったり励ましてもらう場面等がある。共に支えあう関係を築き笑いや喜びを共有している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどのように生活をしたいのか、何をしたいかを日々の関わりの中で何げない言葉の意味や表情、行動からそれとなく確かめながら一人ひとりの思いをくみ取り、その人に合わせた対応と把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	居室担当を中心にアセスメントを含め職員全員で意見交換や解決すべき課題について話し合いを行っている。協力医の主治医とも相談し、介護計画を作成している。	○	さらに、アセスメントシートの見直しと既往歴・生活歴の把握に努めケアに活かしてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	３ヵ月毎に見直しを行い、状態が安定している場合は６ヵ月の期間設定をしている。利用者の状態変化に応じて家族の要望を取り入れその都度臨機応変に見直しを行っている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者、家族から希望のかかりつけ医のない場合は、協力医療機関をかかりつけ医として同意を得ている。担当医師と管理者（看護師）は普段から連携をとり通院介助を行っている。利用者の体に異変を感じた時等も気軽に相談したり指示を仰げる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的に介助が必要となった利用者が増えていく現状を踏まえて、医療機関と方針を話し合っている。利用者には時間をかけて何げない時に意向をたずねたり、家族と話し合い随時意志の確認をしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	オムツ交換や入浴介助に同性の職員が対応し、羞恥心に配慮している。日常的にプライバシーを損ねない言葉かけに注意するなど、プライバシーに関する勉強会も行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中でホームの理念である「ゆったり、楽しく、ありのままに、自由」に沿って、その時の思いや気持ちを尊重し無理に押しつけず、一人ひとりのペースを大切にし草むしりや外出、調理の手伝いなど見守りながら支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは担当職員と利用者で相談しながら立てている。食べたい物、好きな物をメニューに取り入れ、立てられた献立は栄養士がチェックしている。職員は食事介助に手をとられ利用者と一緒に食事ができる状況ではないが、一緒のテーブルで他の利用者にも配慮し和やかな雰囲気で食事をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向を取り入れ１日おきにしているが、その日の状態にあわせて柔軟に対応している。また、雰囲気を変えて紫陽花やゆず、花梨等を浴槽に浮かべて楽しんで入浴できるよう取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	無理に押しつけないで自然に一人ひとりにあった役割や楽しみになるように取り組み、していただいた時はお礼の言葉を伝え、楽しみになるように支援している。生活歴を活かし雑布縫いを楽しみにしている利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	利用者のその日の状況や希望に応じて、馴染みの店や近隣の店に買物に行ったり、薬を取りに行くなど支援している。さらにリース作りに使用する植物を採りに行くなど外出の機会を積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動を把握し鍵をかけることなく自由な生活を支援している、近くに警察署があり定期的な巡回をお願いしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年２回の非常災害訓練を利用者と一緒に実施している。夜間想定訓練や消化器の扱い方、また避難経路にそって布団を使っての搬送の訓練など、いざという時のために具体的に繰り返し行い支援体制に取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の症状にあわせて細かく水分や食事の摂取量をチェックし把握している。むせたり、飲み込みの悪い利用者には人工的な栄養補給に頼らないで同じメニューをきざみや、すりおろして飲み込みやすく工夫し、声をかけながらひとさじずつゆっくり時間をかけて対応していた。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用スペースに利用者の手作りイスが配置されている。畳敷コーナーにはさりげなく座布団や趣味の道具が置いてあり、生活感があり温かみを感じがある。日射しにはロールカーテンやすだれで調節し、空気のよどみもなく居心地のよい場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や寝具、お茶箱を持ち込んでいる利用者もいる。前回の外部評価の結果を踏まえ新しく椅子を購入し居室に配置したが、全体に利用者の好む物を活かした居室としては不十分で画一的である。	○	これからも機会がある度に、本人や家族と相談しながら、本人の希望に沿った物を持ってきてもらうなど検討してほしい。

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙１）を添付すること。

3　評価結果に対する事業所の意見

事業所名	グループホーム　レインボー
記入担当者名	夏井　和代

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。